

アマビエのアルコール

写真は熊本県の深野酒造という会社が作った消毒用アルコールです。ラベルに描かれているのは、本年すっかり有名になった、はやり病に「利益がある」という「アマビエ」をキャラクター化したものです。これは5月下旬に札幌の酒店で偶然見つけて入手したものです。このころは消毒用アルコールが不足し、困っていた方も多かったと思います。いしかり砂丘の風資料館でも、館内消毒用のアルコールが手に入らず本当に困っていたので、すぐに購入しました。

製造元は、熊本県で球磨焼酎を醸造している会社で、全国的な消毒用アルコール不足に対して焼酎の醸造技術を生かして生産したものです。道内でもいくつかの酒造会社が消毒用の高濃度アルコールを製造しています。ただ、大部分は医療機関などに優先して提供されたため、店頭ではなかなか見ることができませんでした。幸い当館では、これを使う前にアルコールを確保することができたので使わずに済み、当館の「コロナ関連資料」となりました。

実は全国の博物館で、今回の新型コロナウイルス感染拡大を歴史的な出来事として捉え、その資料を収集・保存しようという動きが始まっており、道内では浦幌博物館、本州では大阪府吹田市立博物館でコロナ関連資料の企画展も開催されています。



歴史というとはるか昔の出来事のような気がしますが、私たちは今この瞬間も歴史のただ中で生きています。今回の新型コロナウイルス感染拡大は、間違いなく歴史上の大きな出来事として位置づけられるでしょう。当館では、これまでも石狩市の歴史に関する資料を収集してきました。コロナ関連資料も同じように集めていきたいと思っています。

さて現在、このアマビエのアルコールは飲用としても販売されています。アルコール度数は同じ77度ですが、どんな味がするのでしょうか。飲んでコロナに効くという訳ではありませんが、ちよつと味わってみたい気がします。

(工藤義衛)



石狩市学芸員
工藤義衛 Tomoe Kudo

専門分野は考古学と風俗史。石狩独特の文化を研究する一環で石狩の食を代表する「石狩鍋」の歴史やルーツについても調査を行う。

図文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館